

1670 | 美術教育法Ⅳ

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

大坪圭輔教授、山口正己講師

授業の概要と目標

「開かれた学校」のことが意味するものは、情報公開や地域、保護者、生徒などの学校経営参加だけではなく、教育活動そのものを学外にまで広げ、社会や地域の教育力を活用することにある。芸術関係教科は、いち早く学外の教育活動との連携を模索してきている。ここではまず、造形美術教育に関する学外の教育活動についての理解を深め、教科学習との理想的な関係性を考察する。また、造形美術教育の歴史を概観し、今日の造形美術教育の様相や将来のあるべき姿について研究を深めることを目的とする。

課題の概要

○通信授業課題 ※面接授業で提出

「学校外での造形美術教育の事例をひとつ取り上げ、美術教科と学校外の造形美術教育の関わりや、将来像について論述すること」

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

大学指定のレポート用紙を用いて返信可能な状態で持参、提出すること。

○面接授業課題

「中等教育段階の学校教育における造形美術教育の意義や将来像を、日本の美術教育史を踏まえて論述すること」

*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

通信授業



面接授業

[通信授業]

教科書『美術教育資料研究』及び『美術教育の題材開発』を総覧するとともに、美術館の WEB サイトなどを閲覧し、美術館教育など学校外での美術教育の事例について情報を集めるなどして、学校教育外の造形美術教育の現状について考察する。

[面接授業]

現在の造形美術教育の状況を歴史的視点などから包括的に考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階での造形美術教育の意義や実際についての研究を進めることができるようにする。

第 1 日 学外での造形美術教育（通信課題発表を中心として）／日本の美術の重視

第 2 日 日本美術教育史／中学校学習指導要領についての考察（小学校、高等学校との関連など）

第 3 日 題材研究・題材設定、発表講評／面接授業課題

成績評価の方法

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4 年次

[履修条件] 教職課程（別表第 4 適用の中学、高校 1 種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] なし

教材等

教科書：大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

三澤一実監修『美術教育の題材開発』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2008 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

*スクーリング時にセット販売

・文部科学省検定済小学校教科書

『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』
『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済中学校教科書

『美術1』『美術2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済高等学校教科書

『高校美術1』『高校美術2』『高校美術3』（日本文教出版）

その他

参考図書：文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2008年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育出版 2009年）

大坪圭輔、三澤一実編『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局 2009年）